

環境フォーラム「若者よ、地球を歩け ～ヒマラヤ氷河が発信する明日へのメッセージ～」を開催

●大学院環境学研究科

大学院環境学研究科は、環境フォーラム「若者よ、地球を歩け～ヒマラヤ氷河が発信する明日へのメッセージ～」を、4月20日(日)、豊田講堂において、朝日新聞社との共催、文部科学省及び環境省の後援により開催しました。

同フォーラムは、本学と朝日新聞社が2007年秋に合同で行ったヒマラヤ氷河の調査について紹介し、地球温暖化への対応や地球環境改善を考える機会をつくることを目的として行われたもので、約1,000名の参加がありました。

第1部では、山本理事のあいさつ、エルンスト・フォン・ヴァイツゼッカー カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授

のビデオメッセージ、林環境学研究科長の趣旨説明に続き、氷河調査の中心を担う藤田耕史環境学研究科准教授が「今、ヒマラヤで起きていること」と題した基調講演を行いました。ヒマラヤ氷河の研究は、旧水圏科学研究所が1970年代から行っており、航空写真を研究初期と最新とで比較して見る氷河の衰退や、氷河融解による氷河湖決壊がもたらす大規模洪水災害の危機問題などが紹介されました。

第2部では、「地球を歩こう」と題したパネルディスカッションが催され、登山家の田部井淳子氏、上田 豊本学

名誉教授、木村昌樹コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事がパネリストとして出席し、やせ細る氷河に危機感を述べつつ、「長期的な視野の必要な環境問題こそ若者の問題だ」、「地球を歩いて、自分が何をなすべきか、自分の体で考えて欲しい」と提言しました。

また、会場では、ヒマラヤ氷河の写真展があわせて開催され、参加者の関心を引いていました。



藤田准教授による基調講演



パネルディスカッション 会場の様子

エネルギーシステム(中部電力) 寄附研究部門(第4期) 創設記念式典及び記念シンポジウムを開催

●エコトピア科学研究所

エコトピア科学研究所は、4月17日(木)、環境総合館レクチャーホールにおいて、エネルギーシステム(中部電力)寄附研究部門(第4期)創設記念式典及び創設記念シンポジウムを開催しました。

同寄附研究部門(第4期)は、「持続的発展社会に向けた電気エネルギーシステムの革新」をテーマに掲げて創設

されたもので、創設記念式典には、田中孝明中部電力株式会社取締役専務執行役員技術開発本部長、大峯理事、松井エコトピア科学研究所長、北川邦行同副所長、関係部局長・評議員等関係者が出席しました。北川副所長の開会の辞、松井所長の式辞、大峯理事のあいさつがあった後、大峯理事から田中取締役へ感謝状及び記念品の贈呈があり、田中取締役より祝辞が述べられました。

引き続き、創設記念シンポジウムが開催され、第1部では、遠藤奎将教授、早川直樹教授から同部門第3期の研究活動の報告があり、その後、遠藤教授から第4期の活動方針の説明がありました。

また、第2部では、大久保仁工学研究科教授、武藤陽一中部電力株式会社技術開発本部電力技術研究所長、松村年郎工学研究科教授、藤波秀雄財団法人電力中央研究所電力技術研究所長、鈴置保雄工学研究科教授が、それぞれ講演を行い、聴衆は熱心に聞き入っていました。同シンポジウムには約150人が参加し、盛況のうちに幕を閉じました。



シンポジウムの様子